Asia Market Review
2003.12.15

《フィリピン》
2004年大統領選挙に関する世論調査

「次期(2004年５月)大統領選挙がいま実施されたら誰に投票するか」――フィリピンの民間調査会社「パルス・アジア(Pulse Asia Inc.)」が11月27日発表した世論調査では、８人の候補の中で現職のグロリア・マカパガル・アロヨ大統領(56)が24%の「得票率」でかろうじてトップに立った。しかし、これは実際の選挙でこれら８人が立候補し、有権者の票が割れた場合にアロヨ大統領再選の可能性があることを意味する。

アロヨ大統領

一方、今回の調査では、すでに立候補を正式表明しているアロヨ大統領、ラウル・ロコ前教育相(62)、パンフィロ・ラクソン上院議員(55)、それに映画俳優のフェルナンド・ポー氏(64；[人物データ・ファイル]参照)という最有力候補４人が(３人または４人による)３通りの違った組み合わせで大統領選挙を戦った場合の「得票率」に重点を置いた。

それによると、いずれの組み合わせでもロコ氏、またはポー氏がトップに立ち、アロヨ大統領は両氏に追いつけないとの結果が出た。つまり、ロコ、ポー両氏、またはそのどちらかを含む３～４人の立候補者の間で選挙を戦えば、アロヨ大統領再選は難しいことになる。

同調査は、野党陣営の「切り札」的候補と目されているポー氏が11月26日に出馬を正式表明する前に実施されたことを考慮すると、現職大統領の人気が低迷していることを逆に印象付ける結果になった。アロヨ大統領は他の候補と比べると固定化しがちな支持層をいかに拡大するか、ポー氏のような「タレント候補」に対抗するだけのカリスマ性をどう発揮するかが重要な課題になっている。

アロヨ大統領がトップ（立候補者乱立の場合）

「パルス・アジア」の世論調査は全国の有権者1,200人を対象として11月４－17日の期間に実施された(同社によると、調査の信頼係数は95%で統計上の誤差幅は+/-３%)。

調査では「2004年選挙：第一に選択する大統領候補」という項目で、有権者に対して「次の８人が立候補する選挙が今日実施されたとしたら、誰をフィリピンの次期大統領に選びますか」と質問した。８人はこれまでに次期大統領候補としてメディアで名前が挙がっている有力な政治家、官僚、実業家であり、そのうちアロヨ大統領ら４人はすでに正式な出馬表明を行っている。

その結果は次の通り(カッコ内は「得票率」)。

１位：グロリア・マカパガル・アロヨ大統領(24%)
Gloria Macapagal-Arroyo
２位：ノリ・デカストロ上院議員(21%)
Noli de Castro
３位：ラウル・ロコ前教育相(20%)
Raul Roco
４位：フェルナンド・ポー(映画俳優)(19%)
Fernando Poe Jr.
５位：パンフィロ・ラクソン上院議員(８%)
Panfilo Lacson
６位：エドアルド・コファンコ(サンミゲル会長/CEO)(２%)
Eduardo Cojuangco
７位：ヒラリオ・ダビデ最高裁長官(２%)
Hilario Davide Jr.
８位：アキリノ・ピメンテル上院議員(１%)
Aquilino Pimentel Jr.

この結果は、想定される政権与党と最大野党の各公認候補の他に「第三勢力」候補などの立場で上記の８人全員が出馬して大統領選挙が戦われ、有権者の票が分散する場合にはアロヨ大統領再選の可能性があることを示している。

しかし、これら８人のうち、食品・飲料大手サンミゲルのコファンコ会長兼最高経営責任者(ＣＥＯ)は11月25日に大統領選には出馬しないことを言明した(同会長が創設した政党・民族主義者国民連合(ＮＰＣ)の一部幹部はすでにポー氏支持を表明している)。ダビデ最高裁長官も12月に入って出馬しない意向を固めた。ピメンテル上院議員(野党)は「野党陣営は統一候補を立てるべきだ」との持論からも支持率の高い野党候補を支援するほうに回るだろう。

ここでアロヨ大統領にとって気になるのは、２位に着けているデカストロ上院議員(54)の去就。同氏は本稿執筆時点(12月４日)で大統領選挙に関する態度を鮮明にしておらず、特に出馬に前向きな姿勢も伺えない。テレビ・キャスター出身の同氏は同じ「パルス・アジア」による過去２度の調査(注１)では候補中１位の「得票率」を示しており、出馬することになればロコ、ポー両氏と並びアロヨ大統領には手強い対立候補になる可能性がある。しかし、票の分散という点では同氏の「参戦」は大統領にはプラスに働くともいえる。与党ラカスは政治的に中立傾向の強い同氏をアロヨ大統領とペアを組む与党連合の副大統領候補として立候補するよう懇請しているところだ。

[シナリオ１] アロヨ、ロコ、ポーの「三つ巴戦」

実は、「パルス・アジア」による今回の調査結果を発表した５ページのプレス・リリースは、上述８人の大統領候補の間での「得票率」については後ろの２ページで報告した。最初の３ページでは、すでに立候補を宣言し実際の選挙で互いに戦うことが確実視される３～４人の最有力候補の支持率を３通りの「シナリオ」を想定して提示している。こうした「シナリオ」における「得票率」の方が選挙結果の現実的な予測ができるというわけである。

第一のシナリオはアロヨ大統領、ロコ前教育相、ポー氏の「三つ巴戦」。アロヨ大統領は政権与党ラカスを中心とする与党連合の公認候補で、ポー氏が最大野党「フィリピン民主の戦い(ＬＤＰ)」を含む野党陣営の統一候補となる(この場合、ＬＤＰ党員のラクソン上院議員はポー氏のために出馬を辞退する)。

ロコ氏は一時期、与党連合の統一候補になる可能性もあるとみられていた。しかし、アロヨ大統領が10月に出馬宣言をしたのちはアロヨ政権に対抗する姿勢を強めており最も強力な「第三勢力」候補となった。同氏が率いる民主行動党(Aksyon Dem.)は個人政党の色彩が強く組織的な基盤はあまりないものの、富裕層や中産層を中心にする安定した「ファン層」を持つ同氏には多くの浮動票を集めるだけの個人的な人気がある。

ラウル・ロコ前教育相

この「三つ巴戦」における各候補の「得票率」は：
１位：ラウル・ロコ前教育相(35%)
２位：フェルナンド・ポー(映画俳優)(34%)
３位：グロリア・マカパガル・アロヨ大統領(29%)
と出た。

調査での信頼係数と誤差幅を考慮すると、ロコ、ポー両氏の「得票率」は実際には互角で激しく大統領当選を競り合い、アロヨ大統領は落選することになる。

[シナリオ２] ラクソン氏が参戦するケース

第２のシナリオは［シナリオ１］の３人にラクソン上院議員が加わる場合で、各候補の

「得票率」は：
1位：ラウル・ロコ前教育相(30%)
2位：グロリア・マカパガル・アロヨ大統領(28%)
フェルナンド・ポー(映画俳優)(28%)
4位：パンフィロ・ラクソン上院議員(12%)
となる。

上位3人の「得票率」は拮抗しているが、ロコ氏が頭一つ抜け出している。ただ、調査はポー氏が出馬宣言を行う前に実施されていることを考慮すると、(各シナリオに共通するが)現時点ならポー氏の「得票率」はこの数値よりも高いことが推定される。

この［シナリオ2］には十分に現実性がある。早くから出馬を表明していたラクソン氏(元国家警察庁(PNP)長官)は、自身が所属するLDPのエドガルド・アンガラ党首ら野党指導者が、出馬宣言をしたばかりのポー氏を統一候補に認定する方向に傾いていることに反発を強めているからだ。ラクソン氏は野党系独立候補としてでも立候補する姿勢を崩していない。

アロヨ大統領はデカストロ上院議員を副大統領候補に得て人気浮揚に成功すれば当選の可能性もあるが、野党側の方もポー氏とペアを組む副大統領候補としてテレビ・キャスター出身の女性上院議員、ローレン・レガルダ氏を「獲得」したことを示唆している(レガルダ氏は10月、与党ラカスからの離脱を表明し野党色を鮮明にした)。デカストロ、レガルダの両上院議員はメディア大手ABS-CBNに勤務していた時代のキャスター仲間であり、副大統領候補に関する最新の世論調査(注2)では「得票率」でそれぞれ1位と2位を確保した。

［シナリオ3］アロヨ、ロコ、ラクソン3氏の戦い

アロヨ大統領、ロコ前教育相、ラクソン上院議員3氏の戦いは、ポー氏が正式な出馬表明を行い、野党連合が同氏を統一候補として擁立する方向に動いている現在では、可能性の少ないシナリオではある。

このケースでの3人の「得票率」は：
1位：ラウル・ロコ前教育相(40%)
2位：グロリア・マカパガル・アロヨ大統領(33%)
3位：パンフィロ・ラクソン上院議員(23%)
である。

この結果から読み取れるのは、仮にポー氏が出馬を辞退することがあるならば、同氏が獲得する可能性があった浮動票や野党支持者の票のかなりがロコ氏に行くことである。アロヨ大統領は対立候補の組み合わせがどのようであれ固定した支持層があることがわかるが、浮動票を多く取り込むのは難しいことになる。

地域別・階層別の支持傾向

「パルス・アジア」の世論調査は、各候補の地域別および階層別の「得票」傾向を分析している。

それによると、上述の3つのシナリオすべてを通じて、マニラ首都圏と中部ルソン地方ではロコ氏を支持する有権者が最も多い。アロヨ大統領は対立候補が誰であれ、東部・中部・西部ビサヤ地方では最大の支持層を維持している。

南部のミンダナオ島では、ポー氏が立候補しない(アロヨ、ロコ、ラクソン3氏の)シナリオでは、アロヨ大統領に投票すると答えた有権者が一番多かった。しかし、アロヨ、ロコ、ポー3氏のシナリオではミンダナオの有権者は大統領よりもポー氏を支持した。これはラクソン氏が立候補した場合(4氏のシナリオ)でも変わらない。

階層別では、最低所得層(Eクラス)を除くすべての階層で、シナリオの如何にかかわらずロコ氏への支持が一番多数を占めた。特にマニラ首都圏と中部ルソン地方では富裕層や中産階層で広範な支持を得ている。

最低所得層では、アロヨ、ロコ、ラクソン3氏のシナリオでのみ、アロヨ大統領がトップの支持を得た。しかし、アロヨ、ロコ、ポー3氏の戦いの場合はポー氏への支持が大統領を上回った。また、ラクソン氏を加えた4氏の場合は、この層の有権者の支持は大統領とポー氏でほぼ互角であることがわかる。

キーマンはラクソン氏とデカストロ氏

2004年の大統領選挙では、この調査が3つのシナリオで取り上げたアロヨ大統領、ロコ前教育相、それにポー氏の3人は有力候補として激突することになるのはほぼ間違いないだろう。現時点での不確定要因はラクソン上院議員が立候補するかどうかである。同氏は有権者の支持率では3人に及ばないものの、立候補すれば野党票が分裂する可能性があるという点からも大統領選挙に向かう政局ではキーマンの一人といえそうだ。［シナリオ2］からもわかるように、アロヨ大統領再選の可能性が最も高くなるのはラクソン氏を加えた4人が立候補する場合だからだ。果たして野党指導者はラクソン氏が出馬を辞退するよう説得できるのか。

もう一人動静が注目されるのは、アロヨ、ロコ、ポー3氏に劣らぬ広範な人気を持つデカストロ上院議員。同上院議員はアロヨ大統領とペアを組んで与党連合の副大統領候補として出馬するのか、それとも別の道を選択するのか。同氏の政治力学上のベクトルがどこに向くのかは、シナリオで取り上げられた4人の大統領候補の動静にも大きく影響することになる。

(注1)過去の調査：デカストロ氏がトップ

「パルス・アジア」が7月下旬から8月上旬にかけて実施した前回の世論調査ではデカストロ上院議員が11人の候補中で「得票率」1位(26%)だった。以下、2位アロヨ大統領(21%)、3位ロコ前教育相(16%)、4位ラクソン上院議員(11%)、5位ポー氏(9%)の順。

また、5月上旬に発表された前々回の調査(結果の詳細は03年6月1日号の本欄で筆者の分析を付けて紹介)では、調査対象になった18人の候補中で1位はやはりデカストロ上院議員(20%)で、2位ロコ前教育相(18%)、3位ポー氏(12%)、4位ラクソン上院議員(12%)、5位アロヨ大統領(9%)の順。

このように、多数の候補で支持率を競った場合、アロヨ大統領は前々回の5位から前回2位、そして(10月初旬に大統領選挙への立候補を正式表明したのちに実施された)今回の調査では1位と順位を上げてきたことは確かである。

(注2)副大統領候補に関する世論調査

「パルス・アジア」は全国の有権者1,200人を対象として(上述の大統領候補に関する調査と同時期の)11月4－17日に副大統領候補に関する世論調査を実施した(結果は12月1日発表)。

「選挙が今日実施されたら副大統領には誰を選ぶか」という問いに対する有権者の回答は次の通り(各候補の「得票率」)。
1位：ノリ・デカストロ上院議員(37%)
2位：ローレン・レガルダ上院議員(22%)
3位：フランクリン・ドリロン上院議長(8%)
4位：フアン・フラビエール上院議員(7%)
5位：ビセンテ・ソット(3世)上院議員(6%)
6位：バヤニ・フェルナンド・マニラ首都圏開発庁(MMDA)長官(5%)
7位：アキリノ・ピメンテル(2世)上院議員(3%)
ラモン・マグサイサイ(2世)上院議員(3%)
ロバート・バーバーズ上院議員(3%)
10位：テオフィスト・ギンゴーナ副大統領(2%)
マヌエル・ロハス(2世)貿易産業相(2%)
13位：リト・オスメニャ元セブ州知事(1%)

デカストロ上院議員は過去の調査でも副大統領候補としては2位を大きく引き離すほどダントツの支持を得ている。大統領候補としても常に安定した人気を持つ同氏だが、有権者はやはり同氏には副大統領の役割を期待していることがわかる。

［人物データ・ファイル］
■フェルナンド・ポー2世
Fernando Poe Jr.

「銀幕の大スター」として国民的な人気があり、早くから次期大統領選挙における野党陣営の「切り札」的候補と目されてきたが、11

月26日についに正式な出馬宣言を行った。しかし、「映画俳優から大統領へ」という図式は、貧困層の強い支持で当選した同じく元映画俳優のエストラーダ前大統領(汚職の罪で公判中)の「再来」を予感させるのか、マニラ首都圏の経済人の間には早くも同(ポー)氏に対する警戒感が高まっている。翌27日にはペソが最安値を更新したが、同氏の出馬宣言が影響したとみられている。

同氏はエストラーダ前大統領が親友であることを認めているものの、同氏には前大統領のような奔放な女性関係や「アル中」、「ギャンブル狂」といったスキャンダルがなく、私生活を努めて公開しないことも手伝ってクリーンなイメージがある。それだけに、同氏は再選を狙うアロヨ大統領にとっては「第三勢力」のロコ前教育相とともに強力な対立候補となることは間違いない。

経済界には警戒感

大手企業の経営者などを会員にする「マカティ・クラブ」は、同氏には政治的経歴がまったくない上に、国内・国際政治や経済運営での政策を明らかにしていないことを指摘し、「国家運営は映画プロダクションのようにはいかない」(ギレルモ・ルス専務理事)と牽制している。フィリピン商工会議所(ＰＣＣＩ)は警戒感を抱きながらも同氏については「静観」する構えだが、一方でアロヨ政権の経済政策や治安対策などにあらためて高い評価を与えるコメントを出すなど間接的にアロヨ大統領の再選支援に乗り出した。

同じく俳優出身で同(ポー)氏のスポークスマンを務める野党のビセンテ・ソット上院議員は地元メディアに対し、同氏の中心的な政策は①教育の改善②農業の近代化③食品の安全性向上④法秩序の回復――になるだろうと語っているが、その具体的な内容は明らかにしていない。

ところで、同氏が早急に解決すべき重要課題は野党のラクソン上院議員(元国家警察庁〔ＰＮＰ)長官)に立候補を断念してもらうことだろう。野党各党の幹部は同(ポー)氏の出馬宣言直後からフアン・ポンセ・エンリレ元上院議員率いる選出委員会を組織して野党統一候補の擁立を協議しているが、最大野党「フィリピン民主の戦い(ＬＤＰ)」のアンガラ党首などの意向もあり有権者の支持率が高い同(ポー)氏が統一候補に認定される公算が大きい。

しかし、早くから出馬を表明していたLDP所属のラクソン氏は、どれだけ国民的な人気があるといっても「無所属」の新参者(ポー氏)が野党統一候補に認定されることには強く反発しており、野党系独立候補としての立候補も辞さない構えを崩していない。もちろん、(ポー氏とペアを組む)副大統領候補としての出馬の可能性もハッキリと否定している。

ただでさえ分裂気味の野党陣営だけに、統一候補の認定問題が解決しなければ、実際の選挙で野党支持者の票や浮動票がポー候補とラクソン候補の間で割れる事態も想定される。「ポー氏の出馬は自己破滅になる可能性がある」(インクワイラー紙12月２日付)ということだ。これは与党陣営には歓迎すべき状況なのはいうまでもない。

※映画俳優としては、軍人、警察官、神父、イスラム教徒、ボクサーなどあらゆる役をこなしたが、国民的なスターとなったのは抑圧された人々を助けて無数の悪漢を粉砕する「正義の味方」役。特に有名なのは「Ang Panday(蹄鉄工)」シリーズで演じた、魔法の剣を操るフラビオという名のヒーローである。また、同氏が演じる典型的な主人公はピストルの早撃ちにすぐれ、悪党との戦闘では容赦がないが、美しい女性の前ではドギマギするといった役どころである。こうしたキャラクターはまさにフィリピン国民が愛してやまないもので、特に低所得層は大統領候補としてのポー氏にもそうしたヒーローを重ねて見ているところがある。

▼データ

【本名】ロナルド・アラン・ポー(Ronald Allan Kelly Poe：フェルナンド・ポーは父親の名前に因んだ芸名)

【愛称】一般には「ＦＰＪ」で知られる
映画監督としてはドラノル・レイエス(D'lanor Reyes)またはロンワルド(Ronwaldo)・レイエスの名前を使う

【現職】映画俳優・監督/映画制作会社社長

【年齢】64歳(1939年８月20日生まれ)

【生地】マニラ(米国生まれとの情報もあり、与党陣営が同氏の国籍を疑問視している。大統領候補は帰化ではなく、生来のフィリピン国民でなければならないと憲法でも規定されているからである)

【学歴】ユニバーシティ・オブ・ジ・イースト(University of the East)２年中退(中退は俳優業に専念し、家計を支えるためだったとされる。学業を中断した点でもエストラーダ前大統領に似ている)

【経歴】少年期より映画関連会社のメッセンジャーとして働く

1954：映画「Anak ni Palaris」で初主演
(フェルナンド・ポーの芸名)
その後はスタントマンや脇役で映画出演

1956：映画「Lo Waist Gang」で頭角を現す

1960：映画「Makado」で有名スターとして確立

1963：映画制作会社「ＦＰＪプロダクション」設立
同社の姉妹会社「D'lanor 」「Jafare 」「Rosas プロダクション」を設立

2003：最新作「Pakners」に出演
[11月26日] 大統領選挙への立候補を正式表明

【家族】1965年に映画で共演したのをきっかけにスーザン夫人(Susan Roces：本名は Jesusa Sonora)と68年12月に結婚。子供は１女(メリー：Mary Grace)

【横顔】父はフェルナンド・ポーでやはり映画俳優だったが1951年に狂犬病で急死。母はフィリピン生まれの米国人、エリザベス・ケリー(Elizabeth "Bessie" Kelly)。６人兄弟の２番目(ポー氏以外は米国籍。父フェルナンドの名前を受け継いでいた兄弟は死亡)。

＊祖父のロレンソ・ポー(Lorenzo Pou：ポーの元々の綴りは Poe ではなく Pou だった)はスペイン・マヨルカ島在住の劇作家だったがフィリピンに帰化した。

＊1963年、同僚俳優だったエストラーダ氏(のちに大統領)と犯罪組織「ビッグ・フォー(Big Four)」による芸能界での恐喝行為を暴露し、その壊滅に尽力。前大統領との深い友情はこの時以来のもの。

＊フィリピンの映画アカデミーFAMASから最優秀男優賞を５回受賞した。また、監督作品は最優秀作品賞を３回受賞している。

＊食品・飲料大手サンミゲルのコファンコ会長と親交があり、サンミゲル・ビールのCMなど販売促進にも一役かった。同会長は同氏に「ギャラ」として１億ペソ(１億9,500万円)支払ったといわれている。

＊与党陣営の一部政治家からは「同(ポー)氏が大統領になりたいのは親友のエストラーダ大統領に恩赦を与えたいという理由だけ」との批判が出ている。これに対して、同氏は「まだ有罪判決が確定していないものに恩赦は必要ない」と答えて言明を避けている。一方、前大統領の家族や支持者は同氏の大統領当選に向けて支援活動を行うと表明している。

[既出データ]

■**グロリア・マカパガル・アロヨ大統領**
(00/11/15)

■**ラウル・ロコ前教育相**(03/06/01)

■**パンフィロ・ラクソン上院議員**(01/07/15)

■**ノリ・デカストロ上院議員**(03/06/01)

■**エドガルド・アンガラ上院議員**(01/07/15)

■**フランクリン・ドリロン上院議長**
(01/07/01)

■**フアン・フラビエール上院議員**(01/07/01)

■**ラモン・マグサイサイ(２世)上院議員**
(01/07/01)

■**テオフィスト・ギンゴーナ副大統領**
(02/02/15)

■**マヌエル・ロハス(２世)貿易産業相**
(03/01/01)

■**ジョセフ・エストラーダ前大統領**
(00/01/01)

■**フアン・ポンセ・エンリレ元上院議員**
(01/05/15)

〈最新情報〉

野党陣営の中で「フィリピン民主の戦い(ＬＤＰ)」ラクソン派と「フィリピン大衆党(ＰＭＰ)」は12月４日、ラクソン上院議員を大統領候補に指名。これで大統領選挙ではラクソン氏が参戦するシナリオ２が濃厚になってきた。

(アジア政治アナリスト 勝田 悟)